

環境に関する研究実績

株式会社 日本機材

弊社代表取締役社長 春日秀之が産学行それぞれの研究機関にて環境に関して行った研究実績を以下に整理する。

行政機関

★1995年～1996年

産業技術総合研究所（旧通産省工業技術院 物質工学技術研究所）高分子化学研究室にて資源問題と環境問題を背景に、石油以外の原料として一酸化炭素を用いて、土によって分解される生分解性プラスチックの合成について研究した。

学術機関

★1997年～1998年

東京工業大学大学院 資源化学研究所にて、引き続き一酸化炭素から、有毒なホスゲンの代替中間化学原材料としてジメチルカーボネートを合成し、ガラスの代替として有力視されているポリカーボネートの新規製造条件を提案した。

学術機関

★2000年～2001年

フランス・エクス・マルセイユ大学にて、欧州の自然哲学を学び、そのなかで環境先進国の環境への取り組みについて学んだ。

民間機関

★2001年～2004年

フランス・曙ブレーキ中央研究所にて環境に負荷を与えない摩擦材(ブレーキパッド)の基本材開発に従事。
(放ガス性の向上を目的とした改質剤として従来のセラミック系材料から天然素材である活性炭に代替する技術を確立した。→特許出願し現在公開中)

★2004年～2006年

曙ブレーキ開発部門に帰還後、欧州向け高性能基本材を開発。

★2006年～2009年

日本機材へ入社し、自社で扱う特殊樹脂の廃材をリサイクルした材料をもとに新規用途開発に着手している。
東京大学、信州大学等の学術機関と環境方面における連携体制を確立している。